

2005年10月17日発行

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」No. 20

【発行】 熊本県健康福祉部 福祉のまちづくり課

今年は、10月になっても、日中は暑いと感じる日々が続いています。今月末には、熱い、熱い「火の国くまもと」ボランティアフェスティバルが控えているからでしょうか？

今回のメールマガジンは、今月末に実施されます、ボランティアフェスティバルの直前情報と今月20日にオープンします「健軍くらしささえ愛工房」の2本建ての特集号です。

【今月の内容】

《ボランティアフェスティバル情報》

1～いよいよ開幕まであと2週間～

「第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと」

2～ 当日参加もOKです。家族連れでどなたでもお気軽にご参加下さい。

入場は無料です。～

《「健軍くらしささえ愛工房」情報》

1～「地域の縁がわ」モデルづくり～

「健軍くらしささえ愛工房」がオープンします！

2 「健軍発・地域づくりフォーラム」が開催されました

3 地域との対話「地域座談会」もスタートしました

4 福祉のまちづくりリーダー育成「健軍地域福祉塾」もスタート

ボランティアフェスティバル情報

～いよいよ開幕まであと2週間～

「第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと」

10月29日(土)、30日(日)の2日間の日程で、グランメッセ熊本と熊本市民会館

をメイン会場に県内の6ブロックで行われる「第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと」の開催まで、いよいよ2週間となりました。

このフェスティバルは、多くの県民の皆さまにボランティアやNPO活動に対する理解と関心を深めていただき、新たなボランティアの輪が広がっていくことを期待して実施するもので、県内外から約1万人の参加を見込んでいます。

フェスティバルでは、日本赤十字社やスペシャルオリンピックスのボランティア活動家によるシンポジウム、本県出身でボランティア活動に熱心に取り組んでおられる八代亜紀さんと葉祥明さんによる対談、全国から集まったボランティアと県内のボランティアによる41のテーマごとの研究・討議、各会場に交流広場を設け、観光・物産情報の発信や地域の皆さまとの交流などを予定しています。

フェスティバルの運営に際しては、ユニバーサルデザインの考え方を基本に、年齢や障害の有無などにかかわらず、県内はもとより全国から多くの方々に参加いただきたいと考えており、熊本らしい「おもてなしの心」でお迎えすることとしています。

また、2,400人を超える大会運営ボランティアにも応募いただいておりますし、ボランティアの協力で大会参加者へのお土産として、総計2万個の「おじゃめ」を手作りで準備するなど、準備は着々と進んでいます。

さらに、フェスティバルの機運を盛り上げていくため、10月1日(土)には、県内のボランティアの参加により、辛島公園から下通まで「開催1ヶ月前パレード」を開催し、約400人が参加しました。また、九州広告美術業組合連合会主催で行われた「第48回全九州広告美術コンクール」では、ボランティアフェスティバルを題材としてデザイン力が競われました。コンクールに出品された作品170点が実行委員会に寄贈されました。この本県のイメージアップと本フェスティバルの成功に向けた機運の醸成に対する貢献に対して、10月21日(金)に知事から感謝状が贈呈される予定です。

～ 当日参加もOKです。家族連れでどなたでもお気軽にご参加下さい。

入場は無料です。 ～

10月29日(土)は、午前10時から午後5時までグランメッセ熊本でふれあい広場を開催します。広場では、熊本の有名店がラーメンや太平燕、たこ飯で味を競うほか、ボランティア活動の紹介コーナーや体験コーナーもあります。ステージでは、テレビで人気のキャラクターショーもあり、サイン会や握手会も予定されていますので、小さなお子様連れのご家族の方にも喜んで頂けると思います。

10月30日(日)の市民会館では『ボランティアトーク』と題して、歌手の八代亜紀さ

んと創作絵本作家の葉祥明さんが郷土熊本の話やボランティア活動のお話をされます。お二人と親交の深い潮谷義子知事がコーディネーターを務めます。託児所も準備していますので、皆さんぜひお越しください。

詳しくは、次のホームページをご覧ください。

県ホームページ、「ボランティアフェスティバル特集」

<http://www.pref.kumamoto.jp/monthly/index.asp>

ボランティアフェスティバル公式ホームページ

<http://www.vf-kumamoto.jp/> URL : <http://www.vf-kumamoto.jp/>

「健軍くらしささえ愛工房」情報

1 ~ 「地域の縁がわ」モデルづくり ~

「健軍くらしささえ愛工房」が10月20日(木)にオープンします！

住み慣れたところ、顔なじみの関係の中でお互いに支え合う「地域の縁がわ」のモデルとして、県が県営健軍団地に併設して整備し、NPO法人おーさぁが運営する「健軍くらしささえ愛工房」が、10月20日(木)にオープンします。

ここでは、地域の誰もが利用できる通所サービスや、訪問サービス、子育て中の方への交流の場の提供や、障害を持つ当事者が働く喫茶サービスなど、地域の在宅生活を支えるためのサービスを、地域の方々と共に創っていく予定です。

さらに、福祉サービスの提供だけでなく、地域を支えるボランティアの方々を育成したり、県下各地からの実習生の受け入れや研修会の開催等、「地域の縁がわ」を支える人材育成を行って、県内各地域に「地域の縁がわ」を普及していきたいと考えています。

福祉サービスについての詳しいお問い合わせは、NPO法人おーさぁまでお問い合わせください。

NPO法人おーさぁ

住 所：熊本市栄町2-15 県営健軍団地1階

電話番号：096-214-0003

F A X：096-214-0005

2 「健軍発・地域づくりフォーラム」が開催されました

NPO法人おーさぁによる地域づくりフォーラムが、健軍くらしささえ愛工房のオープン

に先立って、9月19日(月)に健軍文化ホールにて実施され、200名を超える参加がありました。

第1部では、NPO法人おーさぁ理事長の小笠原嘉祐氏のコーディネートでパネルディスカッションが行われ、厚生労働省老健局認知症対策室の池田武俊氏から平成18年度の介護保険法改正に伴い新設される「地域密着型サービス」について、立教大学教授の森本佳樹氏から、「地域福祉型福祉サービス」についての考え方、NPO法人おーさぁ理事の川原秀夫氏からは、健軍くらしささえ愛工房で行われる福祉サービスの概要と考え方について、それぞれの情報提供、提案がありました。介護保険を中心とした専門的な援助(サービス)についても、要支援者の日常的援助についても、地域の視点(地域住民の協力と行動)が重要であり、健軍くらしささえ愛工房でも、地域と共に創っていく視点で取り組んでいきたいとの話がありました。

第2部では、熊本学園大学助教授の天田城介氏によるコーディネートで進められ、県福祉のまちづくり課の田嶋課長から健軍くらしささえ愛工房での取り組みのこれまでの流れについて説明があり、子育てママ/かんがるー・ぽう代表の坂口京子氏、熊本市東保健福祉センター保健師の藤島みどり氏、健軍商店街振興組合理事長の刃羽逸朗氏から、既に健軍地区で始まっている地域活動や課題等について発表がありました。

天田氏からは、健軍くらしささえ愛工房の取り組みにおいては、4つの視点、介護保険等の制度の中での地域の役割、地域主体でどのような(インフォーマル)サービスをしていくのか、市民自治型での進め方(コンセンサス)をどのようにしていくか、地域における関係(既存団体活動を含めた)の再構築、を意識しながら進めていくことが重要とのアドバイスがありました。このような問題提起は、日頃から各市町村や市町村社会福祉協議会で直面されている課題そのものではないかと感じられ、今後の動きについて注目いただきたいと思います。

質疑のコーナーでは、隣接する市営住宅に住む91歳のひとり暮らしのおばあちゃんが手を挙げて発言され、「今まで、どこにも行くところがない。図書館もないし、スーパーマーケットばかり行っているが、店にずっと居るわけにもいかなし、寂しくて、みんなと話し合いたいと思っても、邪魔になるから行けない。健軍くらしささえ愛工房が出来るのをとても楽しみに待っています。」といった声もありました。

2 NPO法人おーさぁによる地域座談会も始まりました。

地域のニーズを丁寧にくみ取りながら、一方で地域の理解と協力を進めていく、地域座談会が、NPO法人おーさぁの主催で9月から開始されました。これまで5回実施しており、今後も継続して実施します。NPO法人おーさぁから情報を提供したり、地域のニーズをより丁寧に聴取したり、また、座談会参加者自身の参加意欲も促し、地域の福祉力向上に繋げ

ていく予定です。

今回はこれまでの座談会で出された意見の一部を御紹介します。

県営団地住民（主に独居高齢者）

- ・エレベーターになってとても上り下りがとても楽になったが、近所の人と以前は何度も顔を合わせていたが、最近は1ヶ月に1回ぐらいに減った。
- ・ここに来れば知り合いの誰かに会えるといった、気軽に声を掛け合える場にして欲しい。
- ・今回入居された若い人達との交流もしたい、特に団地の子ども達を通じて、その親御さん達とも仲良くしたい。

精神障害者のグループ(錦ヶ丘クラブ:熊本市東保健福祉センターで活動)

- ・地域住民のコミュニケーションが足りない。
- ・ボランティアをしたいが、する場所がない。
- ・精神障害者であることを告白すると白い目で見られる。

近隣の子育て中の親との座談会

- ・母親同士の仲間がほしい。
- ・おしゃべりだけでなく、みんなで勉強会ができるグループが欲しい。
- ・子どもを見てもらっている間に、運動をしたり勉強をしたりしたい。
- ・突然の体調不良時に子どもを預かって欲しい。

健軍商店街振興組合との座談会

- ・商店街共通の買い物カートを作って、商店街での買い物がしやすい環境づくりを行う。
- ・安心・安全なまちにするために具体的なアクションが必要である
- ・H18年度から導入される商店街のポイントカードの制度とボランティアをうまく結びつける方法を考えたらどうか。(例えば買い物でのポイントをボランティアをしてくれた子どもにあげることができ、子どもは、貯めたポイントでお菓子を買う等)

健軍商店街との連携情報

健軍商店街とNPO法人おーさぁの共同企画「高齢者や障害者など誰もが安心して買い物ができる仕組みづくり」が「地域との連携による商店街魅力創造事業」(県商工観光労働部商工政策課所管の補助事業)に採択されました。

これは、NPO法人おーさぁで養成するボランティアが「買い物パートナー」として、商店街での買い物をサポートする企画で、従来から商店街が取り組んでいる買い物荷物の宅配事業や電動スクーター貸付事業と合わせて、総合的な買い物支援サービスを提供するものです。

3 福祉のまちづくりリーダー育成「健軍地域福祉塾」もスタート

地域の団体（商店街、校区社協等）をリードするキーマンや地域福祉に関心をもつ地域住民の方を対象に、地域福祉の基礎知識と活動例の紹介や具体的な活動の実践を通じた勉強会「健軍地域福祉塾」が開催され、地域の課題を自らのこととして積極的に関わっていこうとする福祉のまちづくりリーダーを育成する取り組みがスタートしました。

第1回は、9月16日（金）に「健軍くらしささえ愛工房」で開催され、県からこれまでの取り組みについての説明の後、参加者一人ずつに日頃の活動の紹介を含めた自己紹介をしていただき、地域の課題を出し合っていました。

アドバイザーとして、熊本学園大学の天田城介助教授とリクルート九州じゃらん事業の井手修身プロデューサーが参加。今後はNPO法人おーさぁが実施する地域座談会や地域アンケート結果等を基に、ワークショップで課題を把握、先進地視察などを通して解決の方向性を探っていく予定です。

「健軍くらしささえ愛工房」の取り組みと地域の市民活動との連動した展開を広げていき、健軍地域全体に支え合いの仕組みを広げていきたいと考えています。

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」 No. 20

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課

記載内容に関するお問い合わせ、情報提供、ご意見、配信の解除、メールアドレスの変更など一切の連絡は、熊本県健康福祉部 福祉のまちづくり課 まちづくり推進班へお願いします。（電話番号が変更になっておりますので御注意下さい）

E-mail: fukushimati@pref.kumamoto.lg.jp

TEL: 096-383-2202 FAX: 096-387-5992